

## 病院前周産期症例への対応に関わる救急隊員訓練生の教育ニーズに関する研究



看護学科助産・母性看護学領域 正岡 経子 教授

## Q. この研究に取り組んだ背景は何ですか？

A. 広大な北海道では、分娩可能な施設が都市部に集中しており、居住地域から医療機関までの移動が長距離化し、病院到着前に分娩に至るリスクが高い状況におかれています。分娩等に関する病院到着前の救護活動に対応するのは救急隊員であり、これまでの調査においても救急隊員が分娩等に関わる状況が報告されています。救急隊員は、母子の生命を守る上で重要な役割を果たしているといえます。一方で、分娩等に係る緊急出動は突発的であり、かつ反復して経験することが少ないことから、個々の救急隊員が現場で実践経験を多く積みながら判断や技術を磨くことが困難な状況におかれていると考えられます。

北海道には、救急隊員を養成する消防学校があります。昨年度、消防学校より分娩等による救急要請が想定される場面を基に、陣痛発来後の産婦と出生直後の新生児に対する処置や異常発生時の初期対応などの教育プログラムへの協力要請がありました。将来、病院到着前の周産期症例の緊急要請に対応する訓練生にとってより効果的な教育内容・方法を知りたいと思い、この研究をすることにしました。

## Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. これまでに道内各地の消防本部から派遣された救急隊訓練生を対象に周産期演習を3回実施しました。演習では、分娩時の母子の健康状態を確認する視点、母子搬送時の留意点、医療機関との連携や新生児蘇生法の基本などについての講義を行いました。その後、児娩出が切迫しており自宅分娩の後、母子を救急搬送するケースを想定した実技演習を行いました。約3時間の演習終了後、訓練生を対象に質問紙調査を行いました。質問紙では、演習を通して理解できたことや更に知りたいこと、取り上げて欲しい内容について記述してもらいました。

集計の結果、理解できた内容としては、「分娩が間近に迫った産婦の観察点と判断」「自宅出産時の対処方法」「分娩直後の産婦の観察点と判断」「出生直後の新生児の観察点と判断」については、研修生の9割が、「理解できた」「まあまあ理解できた」と答えていました。自由記載では、「消防・救急隊員は、日頃、人の不幸な現場・災難な現場に赴きます。稀なケースではありますが、分娩という人の幸せな瞬間に立ち会えることは大変嬉しく、尊いことだと感じました。妊婦さんや家族の幸せを決して不幸に変えてしまわないように、今後も自分たちにできることを学び、訓練していきたい」等の意見が記述されていました。一方で、演習に取り入れてほしい内容として「救急車内での出産時の対処方法」「異常経過の妊産婦への対応と応急処置」「新生児蘇生法」が多く挙げられていました。自由記載でも「救急車に積載している資機材での対応」「早産、逆子、双子の対応」「産後出血が止まらなかった場合の対応」「肩甲難産の対応」など具体的な異常事例が挙げられていました。



## Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 病院前周産期症例に係わる医療機関と救急隊の連携は必要不可欠であると考えています。今回の質問紙調査の結果から、救急隊訓練生は、母子の健康状態が良好な場合の対応についての理解は得られた一方で、将来の救急現場で出会う可能性のある異常症例の救命救急・応急処置や分娩介助技術の修得を望んでいることがわかりました。国家資格を有する助産師の業務として法的に規定されている分娩介助技術を救急隊訓練生にどこまで伝えるのかを検討しながら演習プログラムを再考していきたいと考えています。また、演習に参加する訓練生の所属地域による教育ニーズの違いなども分析し、より地域の実状に合わせた教育内容にしていきたいと考えています。

## もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- 看護学科母性看護学領域 URL  
➡ [https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns\\_bosei.html](https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns_bosei.html)
- 助産学専攻科 URL  
➡ <https://web.sapmed.ac.jp/jyosan/>
- 大学院保健医療学研究科看護学専攻母性看護学分野 URL  
➡ [https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g-ns/g-ns\\_zyosei-kenkou.html](https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g-ns/g-ns_zyosei-kenkou.html)